

iPad活用 顔認証で解錠

監視カメラシステムのセーフィー（東京・品川）は、顔認証でドアの鍵を開けるシステムを開発した。入退室する人の顔写真をクラウド上に登録し、ドアに設置したiPadで認識する。新型コロナウイルス禍でテレワーク利用が増えるシェアオフィスなどの需要を見込む。

セーフィーは監視カメラの映像をクラウド経由で管理するサ

管理データでクラウド セーフィー

ービスを手掛ける。一般的な監視カメラは建物内に専用の部屋を確保したり、録画サーバーを置いたりする必要がある。セーフィーはデータをクラウドで管理するため、初期費用や管理費を抑えられる。

このほど顔認証の鍵解錠システム「セーフィーエントランス」を開発した。ドアの近くに顔認証用のアプリをダウンロードしたiPadを設置する。ドアに近づくと自動で鍵が開く。マスクで鼻まで隠れた状態でも個人を識別できる。

顔認証はIDの貸し借りができず、なりすましを防止する。入退室の履歴はクラウド上に残り、コロナの感染予防対策や労務管理への活用が期待できる。オフィスのほか、父母が出迎えて出入りする保育所などの利用も見込む。

iPadは利用者が用意する。アプリの1カ月あたりの利用料は2000円で、登録者100人ごとに別途6000円が必要になる。

セーフィーの顔認証システムは、複数の拠点の入退室情報も一括管理できる

